

今回お邪魔した仮設住宅は双葉町から避難している方達が住まわられていて、福島市の佐倉地区にありました。

ご自宅には、今でも時間制限の中で時々帰って様子を見に行くとの事でした。荒れ果てている故郷には、“もう帰れないと思う”とお話しされていました。

しかし今もこれからの方針が決まらずに、小さい仮設でこの冬を過ごされると思うと心が痛みます。

コープふくしまの理事さん二人と、職員のかたと私達二人の五人で訪問しました。

この佐倉の仮設住宅はあまり大きくないのですが、埼玉生協が、毎月訪問して交流している所と聞きました。私達は伊東と浜松のお菓子を持っての訪問です。お菓子を食べながらのおしゃべりと、お手玉やつるし飾りを少し持っていったので、その作り方のお話で時間を忘れるほどでした。後半には、近藤さんの指導で体を動かしたり歌を歌ったりでとても盛り上がりました。そして年配の男の方が福島の民謡を歌い始めて、それに合わせてみんなが机の周りを回り盆踊りを踊りました。笑い声のはじけた三時間でした。

静岡から来たということで、“前に用宗に住んでいたよ” “西伊豆からの富士山はきれいだね” “三保の松原からの富士山もすばらしいね” と話しが出ました。

被災地を忘れないでください、まだ復興は終わっていません、現状を見にきてください

こんなメッセージを受けて、私達に出来る事は、取り敢えず福島に行き、現状を肌で感じて皆さんに寄り添い、共有した時間を楽しく過ごしていただくことでしょうか。

そして、忘れられていないと感じていただける事で、被災地の方々が前に少しでも進んでいかれるように祈るばかりです。



福島を訪問して

近藤 良子

福島市さくら応急仮設住宅は福島駅から南西に7キロ程のところであり、10/22にコープふくしまの理事さんに案内していただき訪問することが出来ました。

集会室には10人程の方を集めて下さいました。理事さんの挨拶で「ふれあいサロン」の始まりです。自己紹介をし、お茶やお菓子をいただきながらお話を伺いました。(以下は数名の方に伺ったお話の一部です)

月に一度申請して自宅に日帰りできるようになったが行くたびにがっかりして帰ってくる。家の中は、地震のかた付けも出来ないまますぐに避難となり、当日のまま。どこから手をつけたらいいのか。動物が入ってお米や保存食をかじり、家の回りには糞が。家の中に蜂の巣が出来て近寄れず、駆除できないまま行くたびに大きくなり、役所に駆除を頼んだが自分でやって、と言われた・・・もう帰る気がしないし、いつ住めるようになるかもわからない。

この仮設住宅は4箇所目。お風呂の追い焚きができるようにしてもらってこの冬は助かる。仮設住宅の作りも様々で、ここは住宅メーカーが建てたので住み心地が良い。借り上げ住宅に避難すると、こんな集まりもないから仮設を選んで本当に良かった。しかし買い物は不便。あと2年はここにいられるが、そのあとはどうなるかわからない。復興住宅が出来たら家賃も心配だし、入れるようになったら又このみんなとばらばらになってしまう等、沢山お話して下さいました。

静岡のお話も聞いて下さり、仕事で用宗や土肥に行ったことがある、そこからの富士山は素晴らしかった等。なかなか旅行もできない方にとっては、他県の話は旅行気分なので嬉しいそうです。

又、「吊るし雛の会」からお渡しした吊るし雛や、おてだまを「可愛いね・・・」と感心した方が、つくり方を是非教えてと熱心に聞いて下さいました。

次は皆さんと歌に合わせて、手を叩いたり、お隣の肩を叩いたりゲームをしました。そして「富士山」や「みかんの花」の歌の後、おじいさんが福島民謡を歌い出し、皆さん立ち上がり見よう見まねの盆踊りを踊りました。そのあとも民謡を皆で歌い、最後に手をつないで「もみじ」を歌って終わりました。

私は今年の11月に始めて福島を訪問し、とにかく又来て欲しい、お話をしに来てくれるだけで嬉しい、と伺っていたので今回その機会を頂き、本当に感謝しています。少しでも笑顔が見れたら、と思いながら伺いましたが、皆さん笑顔で民謡や踊りも披露されて楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

今回の訪問へのご尽力に感謝すると共に、被災された方々を支援し続けるコープふくしまの皆様の後方支援を今後もさせていただきたいと思いました。又、理事さんからは毎月のお茶やお菓子、吊るし雛、原釜の支援は本当に有難いとおっしゃって下さいました。